

第4回御嵩町総合計画審議会
実施報告書（議事録）

平成27年9月
御嵩町総合計画審議会事務局
（御嵩町企画課）

議事録

1. 開会

○各務企画課長

本日は夜分遅くに、月末のお忙し中、お集りいただきましてありがとうございます。定刻よりも若干早いですがみなさんお揃いですので、これより第4回の御嵩町総合計画審議会を開催いたします。

はじめに、会長の横山先生よりご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

○横山会長

皆さんこんばんは。

前回は6月だったということで、日にちがあつという間に経ちましたが、その間に事務局で基本構想案をおまとめいただきました。各回のみなさんのご意見を踏まえていただき、バランスの良いものをまとめいただきました。しかし、各委員からみれば、ここはどうかなど、ご意見があると思いますので、今日は資料を事務局から説明いただきまして、みなさんからご意見をいただきます。

最終的には、構想案が総合計画の最初の部分となるということで、ある程度の方向性を決めていきたいと思います。

○各務企画課長

農業委員会の会長は伏屋さんから可兒様にお代わりになりました。まずは、委嘱状を総務部長から交付させていただきます。

(寺本部長より委嘱状交付)

可兒委員からは、自己紹介をよろしくをお願いいたします。

○可兒委員

こういう会議については、知識があまりありませんが、精いっぱい務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○各務企画課長

(本日の資料の確認)

これより議事にそって進めたいと思います。

横山会長、よろしくをお願いいたします。

○横山会長

今回の資料について説明を、事務局よろしくをお願いいたします。

3. 議事・意見交換

(1) 第五次総合計画 基本構想(案)について

○高木企画調整係長
(資料1について説明)

○川上企画調整係主任
(資料2、3について説明)

○横山会長

それでは、ここから委員の皆さんのご意見をいただきたいと思います。前段、後段に分けて、前段に基本構想、主に資料2の内容について、まずはご質問や、説明に対してもう少しこの辺はどうなのか、それぞれのお立場でもっとこういうことはないのかなどをご指摘いただきたい。

後半戦は、今日の目標として、まちの将来像3案示されているが、これについての意見をいただく。そこに続いて具体的にめざす町の姿が5本柱で整理されているので、これについてもご意見をいただきたい。

最初に私から、資料3のところで、教育という観点からは学校教育、社会教育、家庭教育の3つが柱となる。それを合わせて、生涯教育という概念になる。さらには、一般行政でやられる分野を合わせて、生涯学習。私は人づくりが大切と考えており、5本の柱が出ているが、それを強調していくのか、後ほどご議論をいただきたい。

○水野委員

質問という程でもないが、資料1の環境を誇りとするまち、この環境があまりにも焦点が大き過ぎる。毎日生活している中では、実際に体験できる環境は本当に誇りが持てるかということは、生活の中であわせない。

今、世界でもCO2削減も言われ、ある程度企業が取り組んでいるが、CO2削減を町の目標に加えるとおもしろい。駅のさんさん広場に電気の充電の機械と、水素の機械が設置されているみたいである。どれぐらいの頻度でどういう使い方がされており、御嵩町で電気自動車がどれぐらい普及するか。将来像を見据えてやっていただくと、御嵩町の町が本当に環境を主にしてやっている、目に見えて分かるような施策をやっていただけるとよい。

○各務企画課長

CO2の目標を加えたらどうかというご指摘ですが、環境モデル都市でアクションプランを作っており、環境都市で認定された段階で、概ね35%削減する目標値を立てている。それに向かって、現在進めている。5年間でそれを進めるということで計画しており、その目標値に向けてやっていく。35%削減という意味は、各家庭、企業でそれぞれ努力する、もう一つは森林整備によりCO2の吸収量を増やす、この二つを合わせて35%削減。緑を守ることもCO2の削減、吸収源の確保につながると理解いただきたい。それはアクションプランで示しており、それぞれ個別計画との整合を図りたい。

EVカーの話が出たが、PHV：プラグイン・ハイブリッド、ハイブリッド、EVの普及率も見込みながら目標値を示しており、水野委員がご指摘いただいたことはアクションプランで進めており、それは総合計画と連携を図る。

○寺尾委員

駅前の充電器は、あそこまでの看板の案内がない。先日も、土岐から来た人に充電器があると聞いたと尋ねられて、そこまで付いて行った。いいものがあるが、みんなに知れ渡っていない

い。それだけのものを作ってある以上、看板を分かりやすく立てていただきたい。

総合計画に組み込んで良いのか分からないが、日本の国中で犯罪が増えており、どうしたら、子どもや高齢者を含めて犯罪を防ぐための芽もみせていく必要がある。提案するということではないが、考えていただくとありがたい。

○横山会長

安全・安心ということですね。

○谷口委員

冒頭の説明があったが第四次から第五次の綱渡しとして、参加型から協働ということにシフトしたということであった。協働のイメージは何となくわかるが、もう少し協働が広がっていきとよい。

5つの方針は、平た過ぎてどういうことに重点を置くのかわからず、説明を聞いたら、環境、教育、福祉、産業観光、安全のようなことに力点を置くのは分かったが、ぱっと見て分かるとうありがたい。

○横山会長

同感に思うこともあるので、後半でうかがいたい。

○田中尚委員

観光協会の立場では、この第5次総合計画の中でも3番で歴史資源の保全・活用を取り上げていただいている。今年は町制60周年、願興寺の開山1200年を迎えようとしている。しかし、予算的にさみしい気がする。歴史は途中で中断するわけにいかず、脈々と流れて後世に伝えていくものであり、空間をつくるわけにいかないで、中山道に二つの宿場を有しており、全国的にも人目を引く。小さな町に二つの宿場があるということは、江戸から京までの間で、昔は木曾川の湊町もあり交流しており、昔の玄関口として歴史があると聞いている。湊町の観光資源も草ぼうぼうになってしまっていて、見る影がなくなっている。第5次総合計画の中でももう少し強気に盛り込んでいただきたい。町民と役場とスクラムを組んでもうすこし取り組んでいく。総合計画や予算的に目を向けていただきたい。

○横山会長

シティプロモーションという言葉が出ているが、もっと出していくというご意見である。

○田中絹委員

感じたままのことで、資料3の一番下の欄で「夢プラン」のところで、学校教育で郷土御嵩を愛し人間性豊かな児童の育成ということで、具体的に学校とどう連携してこれから取り組むのかと思った。

先日、小学校でコンサートを開催したが、その時に小学4年生だったか郷土の訪問ということで郵便局、願興寺に行ったという写真があった。こういうことなのか、それをもっと具体的なことで郷土教育をもっと取り入れていくのかと感じた。

資料2の34ページ、男女共同参画、外国人住民と共生して暮らすことができる社会を形成するは、具体的にどういうことなのか。よってりゃあみたけで、NSKから3年期限の研修に来ているベトナム人がいるが、女の子に浴衣を着せてよってりゃあみたけに行かせた。会社はすごく喜び好評で、今年は14人という希望があり、浴衣は寄付を募り集まったので、

2、3の有志で着せた。その後、我が家にもベトナムのお嬢さんが来てくれて、料理をいただいたりした。その中に日本に住みたいというお嬢さんが結構いるが、男性との出会いがないという声があった。一人が日本の男性と結婚して定住している例もある。

海外の人が結婚して、3人目、4人目産もうと、子育てに奮闘している。その外国人は日本語を話せるけど、書けないという人がいる。外国人住民との共生は具体的にどんな案か。外国への情報、日本の情報をどんどん入れたら良いと思う。御嵩町の行事も個人的に教えてあげないと、会社の寮ではアナウンスしても分からない子がほとんどである。御嵩町の行事の情報をうまく提供する方法があれば、もっと参加できるのではないか。

○横山会長

学校教育についてももう少し思うことがある。後半の外国人との共生では、美濃加茂市、可児市ではそういう施策を行っており、御嵩町においても盛り込まれるのは大切なことと思った。

○草田委員

まちの将来像で、暮らしてみたくなる町、利便性ということで御嵩町として、良い利便性があるのか考えると、生活するに際して、買い物に行くにしても欲しい物が手に入るところがあるかということとそうでもない。その辺りで、暮らしてみたくなる町ということはどうかなあ。

利便性となると、住んでいても役場の方まで用事で来ることはない。何かあれば可児市の方に行っている。その辺りでそうかな、これから町としてどう利便性を上げていけるのか。いろいろ魅力的なものができてくるのか。

○横山会長

これも後から話をしようと思ったが、ご指摘いただいた。今までの公共交通のみではなく、暮らしやすさ、買い物難民も見られますので、どう対処するのが課題である。

○木村委員

10年後の目標が1万7千と書いてあるが、今から比べるとかなり減る。

○横山会長

そういう人口予測がなされていますね。

○木村委員

商工会にしても商店街にしても個人のお店が少なくなっており、後継者、次の方に渡すことが難しい。

うちは、可児市に近いためののか、家はどんどん建っている。10年先、私は車に乗るかと思うが、店もいろいろできると聞いているので、御嵩の町中とは利便性については温度差がある。今まで何もなく、裏は木曾川だけであったが、裏の方で子どもの泣き声も聞こえ、新しい家が一杯建ち、子どもがいる若い人も増えている。ほかの方とは私のイメージが違うが、新しいお店ができれば、長く続いてほしい。

○横山会長

暮らし、住まいに関すること、後継者の確保などのご意見があった。

○加藤委員

資料1の4番の安心して暮らすことができるということで、認知症対策は入っているのか知りたい。毎年、模擬訓練があり、今年も訓練を行い、午前は認知症を発見する訓練、午後は、ミーモ君が来てから、声をかけようとかやっている。対策と入っているか

○企画課川上

地域包括支援センターで取り組まれているが、こういったことは入ってくる。

ほっとネット、福祉の支え合いも次の計画に入ってくる。特に、ほっとネットは、商工会や地域の皆さんのつながりで動いており、良い事例。

○加藤委員

毎年やっているもので、もっと皆さん興味を持って参加いただきたい。みなさんの協力が無いとできない。

○横山会長

ありがとうございます。

○猪野委員

利便性が良くなれば、人口も増えてくる、広見線が維持できるという期待もある。

まず、資料1の子育て・子育てができる環境づくりで、多世代交流という言葉がある。現役を退いた方達がボランティアで子育てを一緒に。全く知らない地域の子達を受け入れて一緒に学童保育を行う環境づくりが整って来れば、若い人も移住してくれる可能性もある。行政も私達も協力していかなければならない。

もう1点は、平成27年で1万8千人の人口、10年後に1万7千人弱に減るということで、この減少をどう食い止めていくかが課題と思う。高校生が4年生の大学に進学するのは7割ぐらい。国公立を目指す人は、地方で富山、福井の方面が合格はしやすい傾向。一度、県外に出るとそっちで就職したり、生活の拠点ができ、彼氏彼女との生活もある。高学歴の人で岐阜大学などに進学しても、高学歴の人を生かせる場所が御嵩にはない。そうすると地元に戻ってくるケースは少ない。

定住の意向ということで中学生に大人になっても住み続けたいと思うという回答が出ているが、この子達が10年後本当に定住しているか住みたいと思っているのか、そういった調査も必要であろう。個人情報の問題もあるが、調査すべきではないかという個人的な思いもある。企画課の人はどうお考えかお聞きしたいと思う。

○横山会長

副委員長にご発言をお願いしたい。

○中島委員

土地利用構想のところで、人・もの・情報が交わる舞台づくりがあるが、土地の利用と情報の交わりが、文章を読んでもピンと来なかった。

○企画課川上

人と人とで交流から生まれる交流があり、外から人が来ることによる価値観、文化など情報

交流ということ、24ページでふれているようなイメージであり、まちづくりの想いなども入ってくる。

○横山会長

表現をどうするのかということはある。

○可兒委員

初めてで、農業委員会としての農業のあり方についてお話をしたい。第5次計画が10年間ということですが、この先10年の御嵩町の農業人口、作付面積を考えると、担い手の育成に力を入れている。どうしても後継ぎがない、たぶん私が最後になるという雰囲気になっている。みどりという言葉が出てくるが、みどりは山か芝か、稲や野菜を指しているのか、遊休農地、耕作放棄地もみどりである。私の立場からは作物、森林がみどりと思う。遊休地、放置されてしまった土地もみどりであり、そういうみどりも指していると問題。

昨年度から国は農業について中間管理機構ができるようにしており、そこに委託してできなくなった方がそこへ委託して担い手にという制度ができた。御嵩の方はかなりの方がお願いしている。受け手のない農地、小さな田んぼ、山間地域では、ほとんど引き受け手がなく、中間管理機構に出しても引き受けてくれない。さらに、上之郷の山間部では鳥獣被害が出ている。地域的には、前沢とか山奥は、出したとしても受けてもらえない。農家は高齢化しているの、10年先どうなっているのか。とても私は考えることができない。4次の総合計画では、遊休農地は減っているだろうと書かれていたが急速に増えている。放置されている農地、遊休農地、担い手の育成、鳥獣被害の3つが大きな問題になっている。

○横山会長

この中に農地の利活用とあるが、そういうレベルではなく、抜本的な問題である。

○平井委員

個人的な観点からは、農振地域で水田、山林は多いが宅地で新たに住居をつくることもある。一方で担い手がないので耕作放棄地が見られる。農振だから農家の子どもが家を建てるには宅地化できるが、よその人をうけ入れる宅地化は行いにくい。都市計画上の農地という観点を整理し直して、住みやすい場所であれば宅地化して、農地を集約していくことはできないかと思っている。

郷土を愛するという意見があったが、茶園の作業、名鉄電車の利用など授業の中で取り組んだり、三味線など生涯学習の中で郷土を愛することはやっている。

人口の話で1万7千ということであるが、総務課の公共施設総合マネジメント計画には人口動態は15、6年後まで出て、そこに施設計画の考え方をつくっている。その数字からすると、差があるがどういう根拠で数値が挙げられているか。

エリア別人口では、伏見の人口はあまり変わらない、御嵩、上之郷は落ちていくという数字が出ていた。そういう中で、全体のことと合わせてエリア別にどう定めていくか。もう少し丁寧に計画の中で考えていかないと、上之郷からするともっと深刻。そこに協働というものも投げられ、今でも協働をしながら何とか地域を維持している。町内で温度差が出ている気がするの、もう少しきめ細かいことが考えられるのか。

○横山会長

ありがとうございました。今のご質問について回答は。

○各務企画課長

今回の人口の数値とマネジメントの人口目標の違いということである。今、人口ビジョンを策定しているが、国・県の人口動向から、御嵩が新たな政策を打たないとして、比較的今やっている施策を継続した場合の数値を使っている。

マネジメントの時は、大まかな数値しか国から示されておらず、作った時期が2年異なるのでその誤差とご理解いただきたい。

○企画課川上

公共施設マネジメントは、あくまでも今までの推移をベースとしている。ここに示す人口は、合計特殊出生率とか、移動で出て行く人を減らすということで推計して出しており、たとえば町外に出ているのを100人だったのを50人に減らすことで想定している。地方創生や総合計画の取組みで子どもが増えたりなどで、若干数値が違ってきている。

○横山会長

後半で議論したい。

○谷口（鈴）委員

人口1万7千人の人数も、大事なことはその人口の構成がどういう状態かということである。労働人口が高齢者の占める割合が高くなり圧迫されれば、町にダメージがある。人口構成はどういう状態に変化しているのか、変化させるかが町の生き残り戦略につながる。

26ページに土地利用特性からみた地域展開が出ているが、町を持続的かつ今日までの歴史文化、ここしかない特性を生かして継続させるのは何が必要なのか、その視点が全体的に弱い。資料1、3を見ているとそのことが全然でてこない。内容では、まちづくりのイメージと将来像で理念、少しずつ触れられているが、具体性がない。

総合計画であり、具体性を持たせることはきついかもしれないが、少なくとも向こう10年のスパンの総合計画であるなら、ある程度対策をそこに盛り込んでいく。そうすると若者を取り込むのが重要。

高学歴を指向して外に出た若者が返ってこない。帰って来ることができる要素はあるのか。若者の定着のためには、若者がここで生活できる生活基盤が確保できるのかが第一で、その戦略が弱い。総合計画の中でも強調すべきではないか。町に活力がなければ、人は分散する。農業も事業所も、今の御嵩町では事業継承ができていない。事業継承ができない町は、若者が外に出てしまう。それに対して、どういう歯止め、戦略を打つのか、ある程度強調されてしかるべき。全体的にはそれが表に出ていない。

○横山会長

では、岡本委員。

○岡本委員

総花的というか、前回は御嵩らしく作っていかうという意見が出ていたが、どこの町にも当てはまりそうな言葉だけが踊っている。

10年のスパンで考えていくなら、願興寺や歴史にポイントを置くとか、高齢化が進むので支え合うということをもっと盛り込んでいけるのか。若い人が定住しにくいということで、芸術家、アーティストの居住とは出ている、高学歴の人が出ていく、活躍する場がないのは

仕方がないとしても、御嵩が魅力的なまちであったら、入って来る人も確保することを目指そうとか。町民の人がみんなボランティアをやって、一人一役と役割を担っていこうとか、具体的な御嵩らしいことを出したらよい。

○横山会長

今、みなさんのご指摘について、私も同じ感覚を持っている。5本の柱はよくまとめているが、ちょっと御嵩町らしさを感じない。5次総を見ていると、具体的な施策の各章があり、最重点施策に出てくるが、そういう中で具体的に示すことではないかと思う。

横串の政策が必要ではないか。生涯学習、人づくり政策ではないかと思う。生涯学習は日本では非常に狭義、世界では次世代の育成なども生涯学習政策である。地方創生で欠けているのは、本当に愛着を持って、そこに住む人が増えなければ何にもならない。

御嵩町には生涯学習計画がありますかね。

○田中（鈴）委員

作っていないと思う。

○横山会長

生涯学習はふれられていても狭義であり、人づくりを打ち出すのも良い。

もう一つは暮らしやすさである。買い物難民、福祉、公共交通問題の範疇以外の普通の人達がみんな歳をとっている。そういう中で、普通の暮らしができにくくなる。ごく普通の人暮らしにくくなっている。今までの縦割の政策では対処できなくなっている。それを暮らし安さの観点から、切れ目がないこと、部署を超えた視点が必要ではないか。

御嵩町はすごい産業があるわけではないが、安心して暮らせる町なんだとか、広い意味での人づくりに力を入れている町なんだというような打出し方が必要。一度町長にお聞きしないといけないが。

後半の時間がないが、今日の目標として、町の将来像として3案出しているが、どれがいいのか、あるいは付け加えることは。5本の分野についてはまあ異論はないとか、その2点についてふれていただきながらご意見を

○水野委員

将来像は全部良いが、これから10年間で広見線がなくなったら、どうしようかと思っている。ぼくたちがやっている運動のように、みんなが一つになるのがよい。「乗って残そう広見線」も入れていただくとありがたい。

○横山会長

「乗って残そう」は個別の分野のことになり、全体の将来像ということで。案の3がいいという印象ですかね。

○水野委員

そうですね。

○寺尾委員

2番目のはつらつとして仕事に励めると、3番目は文化の向上に努めますということで、目標があるが、たぶん住民の暮らしをどうするのかということで、2番。

○横山会長

町民憲章のことですかね。今回は町民憲章はいじりませんので、まちの将来像のことです

○寺尾委員

もう一度考えてみる。

○谷口委員

人がつながるが良いので、案3。

○田中委員

谷口委員と同じ意見で、抽象的で具体的に分からないのでは。人がつながり、みどりがあふれるは、みどりも幅広い、少し抽象的でどこの町にも緑がいっぱいある。そこを少し変えていただき、御嵩にしかない表現で。

○横山会長

この会が終わり、良いキーワードがありましたら事務局にお知らせください。
めざす町の姿も、分野としてはこれで良いかどうかお教えいただきたい。

○田中（絹）委員

めざすまちの姿の4番の多くの人が行き交うはそういうことか。

将来像は、私は御嵩が好きであり、人と人との絆ということで温かいので、生涯みなさんと住みたいと心を決めた。

協働のまちづくりへから、みんなが主役の町へと思うので案3。

○草田委員

3つの案があるが、2と3が混ざるとよい。人・もの・情報の集い交わり、これによってみんなが主役のまちになると良いという思いがある。人がつながったり、笑顔があふれることにもつながる。一人ひとりが輝くというのは、みんなが主役ということ。

○木村委員

結婚するまでは名古屋にいて、こちらに来て、ゆったりして良い町と思ってきた。

しかし、自慢できるもの、子どもさんが自慢できるようなものが何か一つあればいいと思う。良いことが書いてあって、ごもつともであるが、何か一つ自慢できるというものがあつたら嬉しい。

(加藤委員 御嵩の何が売りになるのか。なかなかない。願興寺のお祭りはあるが、御嵩に何かもう一つ、これが御嵩にあるんだというのがあれば申し分がない。

南山公園の桜が満開になるときれいで、それを受け皿にしてお客さんを集めることとかどうか。

○横山会長 どうとらえるのかということで、すごい遺跡がある必要がない。

琵琶湖の近江八幡は、何も無い葦の産地ところを売り出した。ネーミングとか、もって行き方があると思う。

○猪野委員

笑顔、みどりも大事、案の3になれば。輝くと笑顔は似ているので、3案が一番無難であ

る。

○中島委員

将来像は、案3が良い。

めざす町の姿は、1から5全て良い。教育を通して世代を超えた方々とつながったり、海外の方とつながったりして、そこで魅力を感じて子育てをしたい人が御嵩に住めば、そういう環境ができればよい。

○可兒委員

案の3が、将来像のスローガンとして良い。

○横山会長

みどりの表現は良かったか。

○可兒委員

みどりの表現は、みなさんにこれから考えていただいて。良質の緑ということで。

○平井委員

1番で良い。協働をテーマにしたいわけで、みんなでということになる。「みんなが」、「みんなで」と協働について表現できるようなものに。

めざすまちの姿は、全体でほんわかとしており、どうしてもそこに施策を入れないといけないという意識が働いている気がする。

町の人に対するイメージで、行革も別立で書いてある。逆説的に危機を示して、課題解決型の町の反対から見たものがあるのもよい。少子化、限界集落を乗り越える町があっても良い。

10年後見直すわけですね。こういう設定をしたということが、10年後の人が見て、その通り、すごく考えた、その時につながるメッセージを。

○横山会長

この柱に沿って、具体的な政策が、次回以降入ってくる。

行政計画として課題から出発しているという手続きを踏んでおり、めざす方向に入ってきていると思う。

○谷口委員

総合計画と言えども若干戦略性が見えてると良い。特に向こう10年は、地方の町の政治・行政形態は県や国の政策にかなり影響される部分がある。その情報をうまく入れながら、戦略性に入れるとするなら。県では人口ビジョン、総合戦略の重点戦略を打ってくる。それは地方分権とのからみでは、政策的には絶対にはずせない。近い将来ではリニアの時代に突入する。御嵩町を取り巻く、県、国の全体構想の中で、われわれがどういう戦略の中で、どういうまちづくりをするのか。

参加から協働へ、もっと以前の問題として、自治会自体が崩壊状態に入っている。隣近所を知らない、団地では高齢化して若い子がいなくなり、つきあいが希薄になって、特にその傾向が強い。いろんなイベント行事でもやめようか、絆が強くなる方向で進んでいない。そういうことで、2番が良いのではないか。人・もの・情報が集い交わると、戦略性と絆というものの強調を両方うたうのは妥当。

1番は大枠、それで2番3番に行くと具体性があると捉えることができる。

○岡本委員

参加から協働で、みんなで力をあわせてと入ると良い。入れようとするのが悩むが、支え合うことから2番の人・もの・情報が集まり、これからボランティアセンターを「つくらなければいけないとか、2番が良いと思う。

めざすまちの姿で1番の環境未来都市を目標にということで、環境未来都市は分かりにくい。環境モデル都市は何か、何を指すのか。

○谷口（鈴）委員

環境モデル都市の指定を受けたから。

○岡本委員

北海道の下川町が環境未来都市ですね。ちょっとどうかな。

○横山会長

けっして多数決で決めるものではないが、案3が一番多くて、2が次かなということになる。次回に決定することになるが、後から思いつかれたことがあれば事務局にお知らせください。

最後に、先程申し上げたことと、谷口委員から指摘にあったことであるが、国や県の動向を見て基礎自治体の計画がある。そうではあるが、その町ならではの必要性というものは非常にある。みなさんご指摘のように、実は、地域が疲弊している。超高齢化社会を迎え、地縁組織を含めて負担できない。

私の親も、一つの委員をすると、民生委員、福祉委員とか5つぐらいを引き受ける。こちらの身も分からないのに、かなわないとなっている。

高度経済成長時代の事業や政策をスクラップするとか、再構築する必要がある。ただ維持するのみではなく、暮らしやすさなど横串の政策が必要ではないか。そういう視点で考えた時に、今まで同じ延長線であってはいけない。そういったところに少し踏込んでいかないと、総合計画をつくる意味は、バランスがとれて、何かもう一步、踏み込めないか。具体的施策が出てくる中で、つめていけたらと思う。

○企画課川上

ご質問でお答えできていなかったが、中学生は住み続けたいが23.6%、実際に数字を見ると、平成22～27年では進学、就職を期に出ている。雇用では、町内で企業があるが就職していない、雇用と就労のマッチングができていない。

郷土愛も育てていきながら、一旦外には出て行くが、また戻ってこられる環境づくりや町内に働く場、子育て環境、地方創生で重点的に取り組んでいきたい。

4. その他

5. 閉会

本日は、基本構想に基づいていろいろな意見をいただきました。再度、事務局としては検討させていただきます。特に御嵩町らしさなど、個性なども求められていると分かりました。

余談ですが、御嵩に自慢できるものがあると良いというお話をいただきました。個人的には願興寺、中山道はもちろんあります。最近、外部の人から教えていただくと、住民のみなさん、外から訪れた人が駅を降りて迷っていると、みなさん住民の方が声をかけていかれるらしいです。外部の人の感想は、「こんな温かい人の町は見たことはない」。そういう言葉を

大変多くいただきます。願興寺の歴史、愚溪寺の庭も立派ですが、それ以上に自慢できるものは住民のみなさんです。外部の人が良いというのは、みなさんの温かさ、ということを入れて、「御嵩のよいところは何」と言われたら、「私たちなのよ」とお答えいただきたい。

次回は10月末から11月ごろを予定しておりますので、日程調整がございましたらご連絡をいただきます。

本日は、長時間に渡り、大変ありがとうございました。

以上

